

医療法人社団広恵会 春山外科病院

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-24-5

TEL 03-3363-1661 FAX 03-3371-1021

<http://www.haruyama-hosp.com>

e-mail : info@haruyama-hosp.com

一生に一度は必ずなる怪我

診療部 救急科
鈴木 秀道

昔は暖房の主流がストーブで火事ややけども多かったものですが、エアコンが普及して随分と火災や重症熱傷は減ってきました。しかし、それでも一生に一度は必ずなる怪我なのは変わらないところで、当院の外来にもちょくちょくお見えになります。ここでは改めて最近の熱傷のお話をします。

まず原因ですが、大人では飲み物を体にこぼしてしまった、調理中に鍋の油を足にこぼしたなど、判っていてついいうっかり、が多いようです。一方、小さい子供では、テーブルクロスを引っぱってテーブル上に入れたてのお茶をかぶってしまった、炊飯器の蒸気で熱傷を負った、熱いフライパンに触れてしまった、更には風呂蓋の上に乗って風呂に落ちたなど、大人とは違って熱い物をわざわざ触りに行ってるのでしょうかのような状況で負傷するようです。大人の当たり前が通用しないので、乳児、幼児はもちろん小学生までの子供の親御さんは充分気をつけてください。（風呂蓋の上で遊んで全身熱傷を負ったのは小学4年生でした。高学年といえども油断できません。）



負傷後の処置ですが後にも先にも冷却です。四肢であれば10分は流水で冷やし、病院への移動中も氷水をいれたビニール袋で冷やしながらかけてください。疼痛の軽減にもなります。

熱傷の深達度は3段階に分けられます。1度は赤くなるだけで、冷やすだけで治ります。2度は水泡を作るもので10日ほどで治るかより長引くかの分かれ目の深さ、3度は明らかに深く、治癒に長くかかり元通りの皮ふには直りません。

治療は2度熱傷は軟膏療法が主体になります。湿潤環境に保つことで新しい皮膚の再生促進を図ります。先にも述べましたが感染を起さないよう管理できるかがポイントになります。3度熱傷も治るまで長期間かかり、瘢痕治癒で見た目は美しくないですが手術無しでも治りはします。（焼けて壊死した部分の切除は必要ですが。）ただし手背、足背など関節にかかる熱傷では関節拘縮を起こし動きが悪くなる恐れが強いので、早期に植皮手術を行うほうが機能的にもメリットがあります。

熱傷は初療がもっとも大事ですが、その後の創のケアも重要です。当院では、形成外科がその中心的な診療を受け持ちます。あまり自分だけの判断をしてしまわないで早めの受診をお勧めします。



平成18年7月～18年12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来患者延べ数	5,060	5,191	4,790	5,059	4,811	4,974	29,885
入院患者延べ数	1,636	1,538	1,396	1,455	1,599	1,188	8,812
搬送救急車台数	484	484	451	490	478	576	2,936
平均在院日数	14.4	14.2	16.2	10.8	14.8	11.5	13.6
手術件数	46	44	38	46	53	32	259

職員旅行で沖縄へ

当院では2年に1回職員旅行を実施しております。前回は台湾、前々回はグアムと例年は海外が多いのですが、今年は沖縄になりました。全職員を対象とし、希望者が5つのグループに分かれての旅行となりました。

2泊3日の行程は全てフリータイムになっていて、グループごとにリーダーを中心として各々行きたい観光地を楽しみました。

やはり、一番の人気は世界一の大水槽を誇る美ら海水族館だったようです。 

その他、国際通りやDFSでのショッピングや首里城公園、おきなわワールドなどで観光を楽しみました。職員一同リフレッシュして今年も精一杯がんばりたいと思います。

☎ お電話下さい

《検査依頼》

検査予約は、下記時間帯で承ります。

平日 9:00～17:00（土曜日～16:00）

CT、MRI検査は「放射線技術科」

脳波検査は「臨床検査室」

その他については「外来看護師」
が対応いたします。

《入院依頼》

9:00～17:00の診療時間内の入院依頼は

診療担当医又は鈴木が対応いたします。

夜間、休祭日は当直医が対応いたします。

その他のご相談は医療相談室で承ります。

*当院専用の情報提供書及び検査依頼書がございます。ご利用頂ければ幸いです。
お電話いただければすぐにお送りします

医療相談室より一言

昨年7月の診療報酬の改定にて、療養型病院においては入院日数の削減や、医療度の高い患者様を優先して受けざるをえない状態になったのではないのでしょうか。

現在、当院医療相談室にて対応した患者様の約6割は療養型病院やリハビリ病院へ転院をされています。当院は外科の病院ですので、リハビリテーション病院への転院も数多くあります。しかし、療養型病院へ転院される方も多く、そこには比較的医療度の低い方も含まれます。

法改正後、医療度の低い患者様の受け入れが難しい中、お受入れ下さる病院があり救急病院である当院としてはとても有難く思っています。徐々に有料老人ホームの需要も高くなってきているとは言え、金銭的な面から入所は実現せず、依然として療養型病院の需要は高く、年々増しているのが実情です。

今後ますます、各病院の相談室、地域連携室の方々との繋がりが重要となってきます。是非、今後ともお力添えを頂ければと思います。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
我々も職員旅行に行ってまいりました。
南国沖縄といえどあいにく気温が低くて少し肌寒く…。しかし、連携室の一員でもあるDr.〇〇は半袖で闊歩しておりました。
今年の意気込みを感じました!?
本年も地域医療連携に尽力してまいりますのでよろしくお願い致します。

地域連携室長(副院長) 岡田和紀

鈴木秀道 八鍬美香子 内山慎吾

柴谷健吾 岡田直子 五十嵐一光 大比良瞳